

平成29年度 始業式

新年度の決意

学校だより



第2号

発行
真和志中学校
中村 斉

— 三年生になつて —

◇三学年代表 高良さん (三年二組)

今日から、いよいよ新学期の始まりです。新二年生には、これから入学してくる一年生の後輩がきますね。真和志中学校へ入学して、一年がたつのは、あつという間ではなかったでしょうか。

それは、わたしたち新三年生にとっても同じです。二年前の今頃は、着慣れない制服に身を包み、これから始まる中学校生活に、期待と少しの不安を感じながら、学校への道のりを通っていました。しかし、春の遠足をきっ

かけに新しい友だちもでき、次第に学校の雰囲気にも慣れていき、学年レクや学級レクなどで、より全体の絆が深まりました。

しかし、いくつかの課題もできました。休み時間、廊下や教室を走り回ったり、ジャージを開けっ放しにする、スカー

トの丈が短い、などの身なりで何度も注意され、また、授業中の私語や居眠りで叱られることが多く、学年集会を持つこともありました。しかし、二年生最大の行事、修学旅行が近づくと、一人ひとりが自分の行動に責任を持ち、お互いに声を掛けあいながら、団結した状態で修学旅行を迎えることができ、そのおかげで大きなトラブルも起きず、思い出したいの楽しい修学旅行にすることができました。

この二年間、わたしたち新三年生は、成長した部分もありますが、まだまだ課題が山積みです。一年生の頃から、私たちを信じ、励ましてくれた先生方や、ずっと支えてくれた家族、そして何より、受験生である自分たちのために、これらの課題を改善していきま

— 意思を持つこと —

◇二学年代表 小倉さん (二年一組)

よう。そして、一人ひとりが志望校に一発で合格し、私たちが一年生の頃から目指していた「伝説の学年」を、新三年生全員でつくっていきましょう。

もちろん、中卒で総理大臣になった人もいるし、高校に行っても、絶対人生が大成するとういうわけではありません。いろんな進路があると思

「意思のあるところに道は開ける」、この言葉は『ビリギャル』という映画で主人公の工藤さやかさんへ塾の講師が贈った言葉です。工藤さやかさんは高校二年生のときには学力が小学校四年生と同じレベルだったけれど、この言葉を胸に必死に勉強し、一発で名門慶應義塾大学に合格した人です。

今日から、私たちも二年生として新しいスタートをきります。みなさんの今の気持はワクワク感と緊張感が入り混じっているといます。二年生では、一人一人が本気になるって成長できる年になりました。

みなさんは、自分の意思、目標を持っていますか。私には高校に入るという目標があります。それは少しでも夢に近づくためにどうしても必要なる道のりだと考えています。

まず。その中で、私が一番大切だと思うことは意思を持つてそれに向かって努力することです。例えば、オールマイティーで、何でもできる人なのに、夢や目標を持つていない人がいるとしたら、それは、本当にもったいない人だと思えます。なぜならば、望みを持たない人は、後で後悔してしまふことが多いからです。

さらに、自分の嫌いなものから逃げてしまい、困難なこと、例えば、勉強を後回しにするということも、もったいないと思います。中学生で習ったことは、直接ではなくても必ずいつか役に立つときがあるからです。

アイフォーンを作った世界に大きな影響をあたえたスティーブ・ジョブズさんは、大学で文字の勉強をしていたことがあったそう。看板屋さん

など、直接役に立つ職業に就いたわけではないけれど、文字の勉強がパソコンの発達にとても役に立ったと言っています。こんな風に、頑張っていたことは、必ず後で何かに結びついていくと思います。

二年生は、一年生の頃べていろいろな変化や楽しみがあると思います。例えば、部活動では、後輩が入ってきます。責任もあるし、先輩として見本になる行動も求められます。また、委員会活動でも学校を支えていかなくはなりません。二年生での大きな行事、修学旅行でも、一生に残る大切な思い出づくりや、一人一人の成長のチャンスにしなければなりません。

私たちは、今まで学年レクや旧校舎別れの会など、学年みんなの力でいろんな取り組みを成功させてきました。『生徒の、生徒による、生徒のための学年レク』という意思を持つてたからこそ、成功できたのだと思います。このことを自信に、意思を持ち行動して、いい学年へと進めるように一緒に努力していきましょう。